

研究部門「イメージ文化史」主催ワークショップ（2014 年度）

「マンガ、あるいは「見る」ことの近代」第3回

発表者：宮本大人（明治大学国際日本学部准教授、漫画史／表象文化論）

発表タイトル：「速度と重力、名前と音声－大正末から昭和戦前・戦中期の子供向け物語漫画におけるキャラと空間－」

2015年3月6日（金）、戸山キャンパス 33号館 4階第1会議室

発表者報告：以下

本発表では、漫画をめぐる近年の原理論的な考察がもたらした知見に基づいて、発表者が博士論文のテーマとして以前から調査・研究を進めてきている作品群を見ることで、この時期の子供向け物語漫画の表現の発展・多様化・変容の過程についての仮説を提示するとともに、分析の枠組みそのものに何らかの新たな問題提起を行うことを、試みた。発表は、1. 重力、2. 速度、3. 音声、4. 名前の4部に分けて行った。

まず「1. 重力」では、三輪健太朗が『マンガと映画』において大塚英志の「傷つく身体」をめぐる議論を再検討する中で提出した、「落下する身体」を可能にする重力、およびそうした重力の働く空間の表象という観点から、この時期の作品群において、飛行・浮遊がどのように描かれていたのか、舞台となる空間の奥行きがどのように描かれていたのか、を見ていくとともに、改めて、重力の働く対象としての身体の描写についても、検討した。

「2. 速度」では、単位時間当たりの空間内の移動距離としての速度がどのように表象されていたのかについて、乗り物、キャラクターの走り、銃弾・砲弾、時代劇における剣戟、等々の運動の描写から検討した。合わせて速度を複数コマで連続的に見せる際の、コマ構成・コマ展開（伊藤剛）、上位のフレーム（野田謙介）、部分的間接論理・全体的間接論理（グルンステン）についても見た。また、この時期よく用いられた「スピード」の語について、それが物体・身体の運動の速度より、むしろ物語の展開の速度について言われたものではないかという問いを提起した。さらにそこから派生的に、作品の中での天候、季節、朝・昼・夜、等の時間的推移の描写が、物語の演出に積極的に利用されるようになっていった経緯にも触れた。

「3. 音声」では、泉信行の漫画を「読む／詠む」時間をめぐる議論を前提にしつつ、漫画の中の音声の表現が、漫画の時間・空間の広がりやどう関わっているか、映画の中の音声をめぐるミシェル・シオンの議論と比較対照しながら検討した。シオンの言う、インの音、フレーム外の音、オフの音の使い分け、視点と聴取点の分離、聴取点の設定による特定のキャラクターへの焦点化、などの用例をこの時期の作品群に見ていくとともに、セリフや音喩について、表現の仕方、使用量、使用場面等を検討した。その上で、視点と聴取点が分離しうるような状態での物語世界への「没入」とはどのような事態なのか、作中でキャラクターの側から読者への語り掛けがあって読者の「参加」を求めるような仕掛けの例も含めて、鈴木雅雄の言う「観察者の視点と当事者の視点の共存」について、「当事者の視点」という言い方に再考の余地があるのではないかという問題提起も行った。

ここまでの「1.」「2.」「3.」では、いずれにおいても、「指示要綱」までは有名・無名の作家問わず、様々な表現の試みがなされ、多様化と洗練が進み、「指示要綱」以後は、主題や表現に抑制がかけられた分、それを補う形で、ある部分ではさらに表現の高度化・洗練が進んだ、という仮説的な見取り図を提示することとなった。今後、より詳細に検討していきたい。

最後に「4. 名前」では、当時の赤本漫画に多い、「のらくろ」など人気のキャラクターに名前や造形を似せたキャラクター（のらくら、のらくさ、のら黒兵衛、どらくろ等々）を主人公にした作品を手掛かりにしつつ、キャラ／キャラクターの固有性の問題について、文化人類学の立場からクリプキと柄谷行人の固有名論を再考した出口顯の『名前のアルケオロジー』を参照しつつ、伊藤剛の議論、およびその整理を試みた岩下朋世のキャラ図像／キャラ人格／登場人物をめぐる議論について検討した。

質疑応答では、空間表象の問題に関して、奥行き表現、光の明暗表現や光源の設定、「の

らくろ」の「地平線」などについて、笹本純氏、夏目房之介氏らから有意義なコメントをいただいた。キャラと名前の問題に関しては、伊藤剛氏、岩下朋世氏から、こちらからの問題提起に対して有意義なレスポンスをいただいた。発表者としては、今回の発表は仮説の論証としては不十分であり、むしろ過渡的な問題提起としてフロアとの議論に時間を取りたかったのだが、準備不足のため、発表の組み立てが十分整理されておらず、作品画像の提示等にも手間取るなど、5時間を超える時間をいただきながら、十分なディスカッションの時間を残すことができなかった。ご参加くださった方々にお詫び申し上げたい。なお、発表終了後、ブログやツイッター等で、有意義なコメントや、参加者同士でのやり取りなどの、ありがたいリアクションもあったため、下記URLにまとめさせていただいている。

<http://togetter.com/li/792109>